

## ファンケル ニュースレター

2010.1.14 Vol. 17

ご質問・お問合せ(担当 広報・大塚)

TEL 045-226-1230

FAX 045-226-1202

HP www.fancl.co.jp

〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1



## 今の特集

## ファンケルスマイルの軌跡

ファンケルの特例子会社として、1999年2月に設立されたファンケルスマイルは、昨年で10周年を迎えました。単体での黒字化も達成し、障がい者雇用のモデル企業として、今では多くの注目を集めています。

今回は、ファンケルスマイルの軌跡と、今後についてご紹介します。

写真: ファンケルスマイルの従業員一同

## 特集

## ファンケルスマイル10周年

～みんなの笑顔がここにあります～

厚生労働省が平成21年11月20日に発表した「平成21年6月1日現在の障がい者の雇用状況について」によると、障がい者の法定雇用率1.8%を達成している企業の割合は45.5%と、全体の半数にも満たないことが分かります。しかし、実雇用率を対前年比で見ると、1.63%で0.04ポイント上昇し、厳しい雇用情勢の中、民間企業における障がい者雇用は少しずつ前進してきていることが伺えます。

ファンケルの特例子会社、ファンケルスマイルは1999年に設立されました。設立3年目で黒字を達成し、当初10人だった社員数は、現在40人に増えました。障がい者雇用における先進企業として、ベストセラーになった「日本で一番大切にしたい会社(坂本光司著、あさ出版刊)」でも紹介されるなど、多くの注目を集めています。

日本の障がい者雇用の現状や課題を考えながら、ファンケルスマイルの軌跡と今後の展望について、同社代表取締役社長の簗島修に話を聞きました。

## 「ファンケルと障がい者雇用」

簗島: ファンケルスマイルの設立前、当時の法定雇用率1.6%を達成している企業はまだ少なく、身体障がい者の方々については、民間企業に雇われるケースはあったようですが、知的・精神障がい者の方々の雇用は進まず遅れをとっていました。働ける能力は十分に持ちながらも、偏見や先入観により、働く機会すら与えられず、社会の片隅でひっそりと生きざるを得ない、そんな方々にこそファンケルが目をつけるべきだということになりました。



簗島 修 みのしま おさむ  
株式会社ファンケルスマイル  
代表取締役社長

箕島: そうは言っても障がい者雇用としては全くの素人。いろいろ模索した中で「特例子会社」という制度を利用してはどうかということになり、先輩企業を見学に行ったり、話を聞いたりして、すぐに会社を立ち上げました。われわれは神奈川県では 8 番目、全国では 96 番目の特例子会社です。

当初は 10 名の知的障がい者からスタートしましたが、仕事に対するひた向きの姿とまじめな仕事ぶりが次第に評価され、現在は 40 名もの大所帯になっています。社員が 38 名、パートが 2 名。うち知的障がい者 37 名、身体 1 名、精神 2 名となっています。指導員はパート 4 名、本社からの出向が 5 名の合計 9 名です。

企業に一定数以上の障がい者雇用を義務付ける法定雇用率を定めているのが、障がい者雇用促進法です。従業員数 301 人以上の企業は、法定雇用率を達成しなければ、不足一人当たり月額 5 万円の「納付金」を支払わなければなりません。また、2010 年 7 月からは、これまで納付金支払いが猶予されてきた従業員 300 人以下の民間企業にも、段階的に支払い義務が課せられるなど、障がい者雇用を促進する動きは年々強まっています。

#### 特例子会社とは…

障がい者雇用率制度においては、障がい者の雇用機会の確保（法定雇用率 = 1.8%）は個々の事業主（企業）ごとに義務づけられています。一方、障がい者の雇用の促進・安定を図るため、事業主が障がい者の雇用に特別の配慮をした子会社を設立し、一定の要件を満たす場合には、特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているものとみなして、実雇用率を算定できることとしています。



(写真)

打合わせは真剣そのもの

#### 「専門知識は要らない。ただ真正面から向き合うだけ」

箕島: 設立当初しばらくは、とても仕事にならなかつたと聞いています。朝礼一つとっても、ぜんぜん人の話を聞いていない。自分の言いたいことだけを言ってその場を去っていく。それまで外に出て働くという経験の乏しい社員たちに加え、本社から出向で来ている指導員たちも素人です。福祉系の勉強をした人間や、福祉施設で働いた経験のある人もいない。時にはパニックを起こす社員もいるなかで、すべてが手探り状態でした。ただ振り返れば、それが逆に良かったみたいです。知識があればあるほど、一人ひとりの能力を枠にはめてしまいがちになります。社員たちはみな障がい者手帳を持っていますが、指導員たちはその内容を知りませんし、その必要もないと思っています。誰がどのランクの障がいを認定されているかなんて関係ない。目の前にある仕事を、このメンバーでやっていこうという気持ちがあって、どうやったらこのメンバーでやっていけるか、どうすればサポートできるかを考えるだけなのです。とにかく、人と人が真正面から向き合うしかなかったんですね。今まで様々な機会を奪われ、自らの自信を失っていた障がい者を一人でも多く雇用して、それぞれの将来の目標や自立の目標をサポートしてあげる。仕事を通して彼らの能力開発の手助けをしていきたいのです。何か発作が起きたときに対処できるよう最低限の知識は持ち合わせていますが、それ以外の専門知識なしにこの 10 年間やっているし、今後もそうしていきたい。ファンケルスマイルの歴史は、彼らとわれわれとの 2 人 3 脚と、いいのです。

内閣府が 2006 年度(2007 年 2 月～3 月実施)に実施した「障がい者施策総合調査」の雇用・就業分野の調査で、「この 10 年間で、障がいがある人が働きやすくなったと思いますか」という問いに対しては、「変わらない」が最も多く 39.5%でしたが、「とても」「やや」合わせて 36%が働きやすくなったと回答しています。その理由は、「働く場所(雇用機会)が増えたため」が 45.6%で最も多く、次いで「障がいがある人が働くための情報提供が進んだため」が 37.3%となり、制度が整備されつつあることが障がい者の就労を少しずつでも後押ししていると言えそうです。

一方で、「働くことに関して、障がいを理由に差別を受けた」と感じたことがある人は 52.1%いました。「仕事を探している時」が最も多く 47.0%、次いで「給与などの労働条件」が 38.1%となっています。また、「働き続けるための職場での配慮」が十分なされているかという問いには、半数以上の 54.8%が「思わない」としており、以前に比べて雇用機会が増えたとはいえ、本当の意味でのバリアフリー実現はまだこれからという印象を受けます。

## 「きっかけ一つで見違えるように変わる」

箕島: 主な業務は、本社およびグループ会社から請け負っているいろいろな作業です。ダイレクトメールの発送、契約書のデータベース化作業、明細書の再発行や店舗で配る化粧品サンプル品を束ねる作業など。本社から集めた古紙のシュレッダー作業は、その後トイレットペーパーに再生処理をします。またそれをグループ会社で買い取り、循環型リサイクルに一役買っています。

基本的にはみんな仕事が好きと言っています。本人がやってみたいと思うことが何よりも一番なので、新しい仕事や担当替えがある際、原則は立候補で担当を決めます。もしやってみて本人が合わないとか、難しいということなら、われわれがサポートしてみて、それでもだめなら前の仕事に戻ったり、他の仕事に移ってもいいのです。

10 年間には、いろいろなエピソードがありました。現在、4 人の社員がフォークリフトの免許を持っていますが、指導員が操作するのをそばで見ている、自分たちもやってみたいと最初に二人が、後にほかのメンバーも挑戦したようです。17 時半に仕事が終わってから毎日テキスト片手に指導員と一緒に居残り勉強をして、半年かけて取ったと聞いています。会社から帰ってきてすぐ自分の部屋に引っ込んでしまって、親が見に行ったら、一生懸命勉強している。自分から机の前に座って勉強している姿なんて、学校へ行っているときから見たことないと、ご両親も感動していました。こういうきっかけや環境を作ってあげるだけで、本人たちは見違えるように変わるので、4 人とも一発合格でした。現在は商品の運搬や、ファンケルグループのイベントの仕事などで活躍しています。

今はもう閉店してしまいましたが、「ほっと！スマイル」という喫茶店を運営していました。この店舗スタッフを募集したときは、立候補して担当が決まった社員のご両親から「うちの子には無理なのは」と心配するお電話がありました。「本人がやりたいと言っているし、スタッフもついているので大丈夫です」と話しましたが、そのご両親はお店に見に来られ、わが子にこんなことができるとは、と涙を流していました。さらにその社員は、徐々に仕事も覚え、次第に指示がなくても自分から状況に気付いて動けるようになっていきました。責任を与えられると、メンバーの成長は目を見張るものがあります。そのことに保護者の方も気付かれたようです。

ファンケル大船社屋一階にある、ファンケルプラザ(ファンケル商品のショップ)でもファンケルスマイルの社員が活躍しています。彼女はファンケルスマイルの入社当初はなかなか馴染めず仕事もままならない状態でしたが、人懐っこい笑顔と、人の名前と誕生日を正確に覚えるという特技に目をつけた前社長の考えでファンケルプラザでの販売の仕事任せました。すると、彼女の力が生き生きと開花でき、今では接客からレジ打ち、商品出しまですべてをこなす看板娘です。

障がい者の方々が、いかに今まで何もさせられてこなかったか、いかに機会を奪われてきたかと考えさせられます。彼らの仕事への責任感是非常に強く、目指すもの、やりたいことをしっかり持っているのです。ここでいろいろな経験をしてもらって、自分の能力に気付いてほしいと思っています。



(写真)  
イベントの運営には欠かせない存在です。

厚生労働省が 5 年ごとに実施している障がい者雇用実態調査で、11 月に発表した平成 20 年度調査の結果によると、民間企業に常用雇用されている知的障がい者の現在の職場での要望事項で最も多かったのは「今の仕事をずっと続けたい」の 56.7%で、2 番目、3 番目の「ほかの仕事もしてみたい」「職場で困ったときに相談できる人がほしい」(共に 10.7%)を大きく上回りました。将来への不安について「ある」と答えた人は 53.3%。理由は「親がいなくなったら生活を助けてくれる人がいなくなる」が最も多く 38.2%、次が「今の仕事を続けていけるかどうか分からない」が 26.0%でした。

「ファンケルグループならではの新事業展開を」

簗島:これまでファンケルグループ内での仕事が主な業務でしたが、今後は外の市場にも挑戦していきたいと考えています。自ら何か作り上げて、世の中に価値を問う、そういった方向に進んでいきたいと思っています。まだまだ案の段階ですが、他の会社にはできない事業を立ち上げ、グループ内からの仕事との両輪でやっていきたいと考えています。ファンケルスマイルのメンバーには、ここでいろいろな仕事を体験し、仕事を通して自信を深め、将来に対する目標に向かって進んで行って欲しいと思っています。

障がい者の自立支援を目的に設立されたファンケルスマイルは、今ではファンケルグループになくてはならない企業へと成長しました。健常者と障がい者の垣根のない社会を目指して、今日もファンケルスマイルには多くの笑顔が溢れています。



(写真左)ファンケルプラザの看板娘 平野邦子さんと指導員の和田久美子さん (写真上)平野さんが手書きした紙芝居



会社概要(平成 21 年 12 月末現在)

社名	株式会社ファンケルスマイル (株式会社ファンケル特例子会社)
所在地	神奈川県横浜市栄区飯島町 109-1
設立日	平成 11 年 2 月 1 日
事業開始	平成 11 年 4 月 2 日
特例認定	平成 11 年 5 月 7 日(全国 96 番目)
資本金	3,100 万円
役員	代表取締役 簗島 修 取締役 ファンケルグループより 5 名
従業員	社員 38 名 (知的 35 名、身体 1 名、精神 2 名) パート 6 名 (知的 2 名、指導員 4 名) 出向社員 5 名 (管理者)
事業内容	ダイレクトメールの封入・封緘・発送業務、商品の梱包、名刺印刷、コピーサービス、シュレッダー作業 など
勤務時間	午前 9:00 ~ 午後 5:30 (休憩時間 60 分含む)
休日	日曜・祝祭日・土曜
加入保険	健康保険・雇用保険・労災保険・厚生年金(基金)
定年制	60 歳